

相模川のコアジサシ

豪の記者が取材



ミレ・マイケル・マツ

オーストラリアなどから夏鳥として飛来するカモメ科の渡り鳥「コアジサシ」を巡る環境問題などを取材するため、同国有力紙の記者が三十日、厚木と海老名の市境を流れる相模川の人工中州の集団営巣地周辺を訪れた。

記者は、「シドニーモーニングヘラルド」紙の東京支局長のマイケル・ミレットさん(41)。厚木市議の高田浩さん(37)の紹介で貴重な営巣地の存在を知り、母国に紹介しようと考えている。

コアジサシは環境省と県の絶滅危惧種に指定されている。同営巣地周辺では、多目的広場整備や堤防道路の建設計画が持ち上がっている。ミレットさんは「日

本の人が飛来のため面倒を見てくれてうれしい。こうした環境をいつまでも保全してほしい」などと話していた。